



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

ヨルダン：新内閣

3月31日、ヨルダンの新内閣がアブドゥラー国王に対し宣誓式を行った。今般の内閣は、国会が首相を選出するとの制度改変が行われた後の最初の内閣である。閣僚数は首相を含め19名で、過去50年で最も規模の小さい内閣である。新内閣の課題には燃料価格の引き上げや財政赤字などの経済問題、シリア危機の影響への対処のような外交問題があるが、ヨルダンでほぼ半年毎に内閣改造・新規組閣が行われており、新内閣がどの程度時間的な余裕を持って懸案に取り組むことができるかが焦点である。

アブドゥラー・ヌスール：首相兼国防相

フサイン・ハザーウ・マジャーリー：内相

ナーセル・ジュデ(ナーシル・ジャウダ) 外相

ウマイヤ・トゥーカーン：財務相

イブラーヒーム・サイフ：計画兼国際協力兼観光・遺跡相

アフマド・ジャーダート：法相兼首相府相

ムハンマド・ワッヒシュ：教育相

アミン・マフムード：高等教育相

ハーヰム・ナーシル：水・灌漑相兼農業相

マジュリー・ムハイラーン：保健相兼環境相

リーム・アブー・ハサーン：社会開発相

ハーティム・ハーフィズ・ハルワーニー：商工業相兼通信相兼配給相

ムハンマド・マウムニー：情報相兼政治・議会担当相

ワリード・ミスリー：公共事業・住宅相

マーリク・カバーリーティー：エネルギー・鉱物資源相

ニダール・マルディー・カターマイン：労働相兼運輸相

ムハンマド・ヌーフ・クダート：ワクフ・イスラーム相

ハリーフ・ハワーリダ：公共部門開発相

バラカート・アウジャーン：文化相